



拾遺  
綴

料卷丁

五

~ 13  
3572  
5





門へ13  
號 3572  
卷 5



粹庵丁亥五

深

娘の病を治すに

柳屋の

一人息を病に

はりの病を治すに

りく病を治すに

やみあの病を治すに

早稲田 四書館  
昭 6. 6. 3 雙  
藏 書























子山と仰るや小野の親も九千九束  
も度つて金登成や終るまでとて  
佐奉登の身語はあ一面新のきと  
途のつとめしと申すも何れも  
商の成るまで款きしとて買成  
しとて成りたる判方の及のなる程  
しとて新しとて世とて目も終るも  
なり

中ふらち中しとて中ハ世終るふり  
也とて世とて終る親に及てとて  
中ふらち中しとて中ハ世終るふり  
しとて終るもとて中ハ世終るふり  
しとて終るもとて中ハ世終るふり  
の白く山とて終るの終る細造り一  
終る指し終るの終る入るも  
終るはとて終るの終る入るも











くらげのふしききこせきな果らぬしこる  
 ころもふらりてさるとしゆえうけかたけん  
 ぬ念も極は一州の血何とまじりて  
 毒丹くともあまやせしうまうしこるませし  
 ぬぬきこる物ぬ世傳の時を井の首り四  
 ころ何中りつりてけりまきとするあまの  
 ぬ丸のまらちをこきてけり極のまらちを

け者極るまきよ看くひ乃まらち大  
 ぬぬびつりてけりまきとするあまの  
 件をまらちまきよ看くひ乃まらち大  
 ころもふらりてさるとしゆえうけかたけん  
 ぬ念も極は一州の血何とまじりて  
 毒丹くともあまやせしうまうしこるませし  
 ぬぬきこる物ぬ世傳の時を井の首り四  
 ころ何中りつりてけりまきとするあまの  
 ぬ丸のまらちをこきてけり極のまらちを



あまのこが妹を瑤姫が姉と云ふと云ふは何れも  
おのづからいふに過ぎぬと云ふは海も今もいふ仲の  
目録にこれありしむごまも何れもいふの  
と云ふはいふに過ぎぬと云ふは海も今もいふ仲の  
すもいふに過ぎぬと云ふは海も今もいふ仲の

加減 狂林 癖 庖丁巻 五終

跋 狼根山人著 此書謂余曰 今世稀少者  
昨下戸與妖怪粹品 然於是乎 使世  
之片窟遊於粹之佳境 逸學書集  
螢閉戸抱空腹 堪寒慄 孰若食交烹  
之温醉瀧水之美酒 耽枕匍匐火遠放  
蕩余曰 否 好臺所酒者 粹誇之癖也  
至干娼婦之袖 結奇妓之梳 掛野良之  
帽 載寡婦青樓之世話 悉盡山冠



而後德得粹之一端乎狼狽山人笑  
 曰久哉書肆之自高尔諺知月擲扇  
 丁與四良云々立替未辨四六損德  
 寧知高長與中藤之鹽梅加威九  
 年不改刃此粹危丁也非外題學問之  
 所知也速粹不之待世人之評判唯  
 粹之切與不切其任真釵遂成粹危  
 丁五冊爾  
 寛政乙卯冬  
 文激堂

寛政七乙卯歳霜月

寺町二条下ル町

鈦屋安兵衛

同押小路下ル町

橘屋傳兵衛

同二条下ル町

吉田新兵衛

浪華書林

皇都書林



